

かたおもひ

帝キネ芦屋現代映畫

原作者 柳川 春葉先生
脚色並監督者 松本 英一氏
撮影者 和志田 誠氏

主要役團

高松國民 小島 洋々氏
その妻下枝 歌川 八重子嬢
その子友彌 町田 慶太郎氏
先妻の子守衛 里見 明氏
郡司禮之進 青木 芳華氏
その妻お力 伊川 貞子嬢
お力の子傳吉 瀬川 銀潮氏
下僕久太 松本 泰輔氏
乳母お米 園 千枝子嬢
壯士黒川熊雄 濱田 格氏
勝山慶一 齋藤 紫香氏
その妻葉末 澤 蘭子嬢

松村 チエ子嬢

横山 隆吉氏

浅野 節氏

矢部 節藏

その子お露
慶一の父恭平
解説——「鞭は鳴る」に次いで松本英一氏が監督製作した現代劇である。
略筋——郡司禮之進は頑く古武士氣質の人物であつた。彼の一人娘下枝は一子禮之進の帯に預け凡々を秘めたまゝ、高松國民に嫁した。禮之進の後妻お力は連子傳吉及壯士黒川と如家儒領を企て常に讓を辱せしめた。お米お米と申僕久太は騎士の如く常に讓を護つて来た。或る日讓け意を決して下枝の妹葉末を頼つて上京したが葉末の貧窮を見て忍びず自活の途を求めてゐた。かゝる内禮之進は逝きお力傳吉無川は高松家の財産に目をつけてゐたが神は正者に與し恵れなかつた讓にも温い幸福は訪れた。